

北海道不動霊場巡礼に参加して

八王子市 岡 光子

平成二十九年六月二十一日、今日は北海道不動霊場巡礼の成満の日である。また本日は飯縄様の縁日でもあるので、午前九時より大本堂で大般若経転読による厳粛な護摩にあずかり、重ねて午前十一時よりの成満の護摩にあずかった。

転読とは大勢の僧侶が經典を誦すること、六百巻という大部の經典を一巻ずつ初・中・終の要所である数行、または題目と品名だけを略読して全巻を誦したこと、に代えるのだそうである。

この度の巡礼は、高尾山薬王院の企画で「苦小牧東蝦夷地開拓移住隊士」の供養と「北海道不動霊場」、「勇武津資料館」、「八王子千人同心の顕彰碑」を巡拝する旅であった。

支笏湖の

底へそへと

新樹光

光子

新千歳空港に降り立つた我々一行・二十八名は大型バスに揺られ約一時間、巨大なカルデラ湖の美しい支笏湖に到着した。雄大な景色の樽前山を控えた巨大な湖だ。

八王子の高尾とは気候が大分ずれている。今が一番美しい新緑の季節で、私達は湖のほとりを散策して昼食をとり、苦小牧の勇払へ向った。

高尾山の巡礼会は先達の堀江承豊師をはじめとし、原秀誠師、杉山宗聖師、松本市の兎川寺の御住職・細萱仙秀師ご夫妻のお世話になり、佐藤伸二師と檀家総代の皆様と

「苦小牧東蝦夷地開拓移住隊士」の墓所に着いた。勇払原野の一面に建立された十八基の墓碑がある。綺麗に整えられた「勇払開拓史跡公園」には今から二百年前、寛政十二年（西暦一八〇〇）年木立ちも凍える最果ての地・勇払に人々の足跡がある。

樽前山は二六六七年と一七三九年に大噴火し現在の苦小牧市街に二メートルの噴石を積もらせたと言われている。樽前山の噴火にともない泥炭地の原野は作物の耕作には全く不向きで、開拓には適さない劣悪な土地であったのだ。入植者は苦勞のしどおしであったという。「八王子千人同心」は徳川幕府の認許を得て、北辺の警護と蝦夷地開拓を主な任務として移住してきた「八王子千人同心」とそれに関わった人たちの墓石群である。また、その人々の十八基の墓碑の中には、蝦夷地在住の幕吏の立場で、



八王子千人同心の顕彰碑前にて記念撮影（筆者前列左から二人目）

防備、開墾、交易、に従事した組頭見習いの河西祐助とその妻、梅の名も刻まれている。異郷の地で幼い二人の子供を遺し、若くして病魔に襲われてこの世を去った梅の名は、長い歳月を経た今もなお、後世に語り継がれて多くの人々の涙を誘っている。梅の生涯は怪談にもなっている。

千人隊

遠祖供養の

墓簿著

光子

わが巡礼団一行は供養の儀式に入り、高尾山の勤行式にのっとり高尾山主の回向文を細萱仙秀師が代わって厳かに朗々と読み上げられた。その声は勇払の原野に響き渡り、開拓当時の有り様が浮かび上がった。

この後、苦小牧の会有志の方たちとの交流があり、勇武津資料館へ向かった。ここでは開拓時代のい

ろいろな資料を見せて頂き当時の生活の厳しさを垣間見ることが出来た。厳寒の荒野で生き抜く精神の支えになったのは不動明王である。発掘された線刻不動にその姿を見ることが出来た。

この勇武津不動は火災光をまとった憤怒の形相で現われ、願いを掛ける者には成就を確信させる。また勇武津不動の基材は凝灰岩である。凝灰岩は火山灰が凝固した岩である。樽前山は一度噴火をすれば苦小牧市全域に二メートルの噴石を積もらせたという。

開拓の

歴史ひもとく

走馬灯

光子

からだと聞く。その立ち姿は念仏に込めて乱世を救ったからだとも聞く。

この後私たちは「勇払千人同心碑」を市民会館前庭に拝観することが出来た。十二本の槍に囲まれた彫像は函館奉行支配の勇払詰調役下役に抜擢された「千人同心」の勇姿である。下半分には妻梅の乳飲み子を抱く姿が表されている。

飢饉の子を

見つむ素足の

草鞋かな

光子

この像の有り様は「夜泣き梅女」という怪談めいた伝説になっている。「寂しい雨のシトシト降る夜、赤ん坊を懐にした若い女がシクシク泣きながら「この子にお乳を

下さい」と戸を叩いて回るが、戸を開けると、その姿はなくなっていた。また若い女が子を抱いて墓場の方へ消えて行く姿を見たという「こんな怪しげな話である。

享和二年（一八一〇）幕府は東蝦夷地を永久土地にし、蝦夷地取締御用掛を蝦夷奉行に昇格させ、八王子千人同心を「蝦夷地千人同心隊」とし、松前藩知行地（藩士給地）であった白糠を御用地としたが、寒冷と病魔に悩まされ、享和二年（一八一〇）勇払隊十四人、白糠隊で十五人が死亡していた。

特に勇払隊では享和元年に十一人が、白糠隊では享和二年に十四人が集中して亡くなり、春から夏にかけて多くの人が無くなった。勇払に赴任した河西祐助も妻の梅も病に倒れ死亡したのである。こうした中で幕府は蝦夷地経営に莫大な経費がかかることから、文化元年（一八〇四）二月に縮小方針を打ち出し、蝦

夷地千人同心隊の開拓と警備もあえなく中止となり、解散することになった。年目のことで、原半左衛門が描いた「蝦夷地千人同心隊」樹立の夢は泡と化してしまっただけである。

悠久の時

たぐり寄せ

蜘蛛の糸

光子

この後、北海道不動霊場のお寺巡りは第二十二番・成田山望洋寺、第二十四番・成田山日照寺、第三十六番・成田山新栄寺をお参りにして結願とし、野幌森林公園、北海道百年記念塔、北海道開拓村を見学した。第三十番無漏山不動院（番外七番）を参拝し、小樽運河北硝子館を見学して新千歳空港に着いた。苦小牧滞在中はお天気にも恵まれ、北海道不動霊場の巡礼の旅は無事終わったのである。

合掌